

尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会 第5回委員会 議事概要

- 1 開催日時 : 平成 29 年 1 月 25 日 (水) 10:30～12:00
- 2 場 所 : 尾原ダム管理支所 (島根県雲南市木次町 211-5)
- 3 出席委員 : 速水雄一委員長、作野広和委員、勝部博委員、石原肇委員、景山孝志委員、勝田康則委員、横川裕委員、高橋裕司委員、柴田亮委員
- 4 議事次第
 - 1) 開会
 - 2) 挨拶
 - 3) 出席者紹介
 - 4) 議事
 - ①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約
 - ②第 4 回委員会以降の取組経過の報告
 - ③平成 28 年度のプロジェクトの実施状況
 - ④水源地域ビジョンの更新 (案)
 - ⑤平成 29 年度の実施プロジェクト (案)
 - ⑥その他
 - 5) 閉会
- 5 配布資料
 - ・資料-1 : 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約
 - ・資料-2 : 第 4 回委員会以降の取組経過の報告
 - ・資料-3 : 平成 28 年度のプロジェクトの実施状況
 - ・資料-4 : 水源地域ビジョンの更新 (案)
 - ・資料-5 : 平成 29 年度の実施プロジェクト (案)
- 6 委員長挨拶
 - ・平成 25 年度の来訪者数は約 10 万人、平成 26 年度は約 12 万 5 千人、平成 27 年度は約 13 万 5 千人、今年度は昨年度以上の来訪者数が予想されるなど、これまで実施してきた取組の成果がでてきている。
 - ・今年度は高校総体や島根県初のトライアスロン大会の開催など、様々な取組が実施されており、これらのイベントもこの地域の名物になっていくことを願っている。
 - ・治水、利水のための尾原ダムにあわせて、地域振興の役割をしっかりと担っていく、そのようなさくらおろち湖にしていく必要がある。そのためにも、水源地域ビジョン推進委員会の果たす役割は非常に大きなものがあると考えている。

7 議事要旨

1) 議事

①尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約

- ◆規約の変更はなし。委員の交替について説明した。

②第4回委員会以降の取組経過の報告

- ◆事務局より、第4回委員会以降の取組経過について報告が行われ、承認された。

【事務局説明内容】

- ・国土地理院が発行している地図では古い情報が掲載されていた。そのため、竣工後の地図情報を提供し、最新の情報になるよう依頼をかけた。
- ・尾原ダムとさくらおろち湖の名称の定着に向けて、併記可能な場合は極力併記するようにしている。
- ・第4回推進委員会後、さくらおろちを活性化する会を4回開催し、取組内容等に関する意見交換を行った。
- ・委員からの指摘を受け、「尾原ダム」と「さくらおろち湖」が国土地理院 web サイト地図情報に反映されていることを確認した。

③平成28年度のプロジェクトの実施状況

- ◆事務局より、平成28年度プロジェクトの実施状況について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・今年度予定していた全てのプロジェクトを実施した。
- ・今年度は、「さくらおろち湖花火大会」や「ダムカレーの検討」、「トライアスロン大会の開催」などを新たな取組として実施している。
- ・全国規模の大会としては、「平成28年度全国高等学校総合体育大会」を開催した（平成27年度は、「第8回全日本マスターズレガッタ」を開催した）。
- ・景観保全・整備の一環として、第2回さくらおろち湖写真コンテストを開催し、ダム湖祭り時に表彰を行った。入賞作品については、雲南市や奥出雲町を中心に巡回展示している。
- ・「ダムカレー」については、3月4日に予定しているクレスト放流時に試験販売する予定である。

【委員からの主な意見】

- ・「(13)-2 日本一プロジェクト」で実施されている『ランバイク教室』については、保護者からも人気が高い。利用者の増加を目指して更なる充実策を検討していく必要がある。

④水源地域ビジョンの更新（案）

- ◆事務局より、水源地域ビジョンの更新（案）について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・平成25年9月に水源地域ビジョンを策定した時の状況と変化していきっている部分があるため、水源地域ビジョンの見直しを行った。
- ・基本的には現在実施している取組は継続しつつ、単独での対応が困難な取組や類似している取組の統合、新たに整備された施設の活用策の追加などを行った。

⑤平成 29 年度の実施プロジェクト（案）

◆事務局より、平成 29 年度の実施プロジェクト（案）について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・来年度も引き続き、今年度実施した取組を推進していく。

【委員からの主な意見】

- ・多くの人が参加する事業へ学生に参加してもらうことが、地域づくりへの参加のきっかけになるのではないかと。
- ・島根大学が中心となり地域貢献型の人材育成を行う『COC 事業』『COC+事業』を実施している。講座の受講生の学習場として尾原ダム周辺が活用できるか働きかけていく必要がある。

2) 今後の予定等

- ・規約に基づき、本日の審議要旨をとりまとめ、委員長の下承を得た上で、議事要旨等を出雲河川事務所ホームページに公開する。その際には事務局より各委員に通知する。

以 上